章 項 目	特 記 事 項 章	項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項
17タイル張り 伸縮調整 (6.16.2)	登目地等 床面 縦・横とも 4 m以内ごと 壁面 図示による		工程の種別 (表7.4.1)~(表7.14.1) 記号名称 種 別	1 コンクリートの 強度 (8.1.3)	コンクリートの類別 類 類	8 暑中コンクリート (8.10.2)	
浮き <i>の</i>	り確認及試験 7 の確認 全面打診による確認を行う	~ (7.15.2)	SOP 合成樹脂調合 へ* イント塗り 木部 新規外部 A種 B種 C種 新規内部 A種 B種 C種 塗替え A種 B種(外部の場合工程2.)	8 (8.1.4) (8.9.2)	普通コンクリート 打設部位 Fc(N/mm 2) スランプ (cm) 備	8	地域 日平均気温が25度を超える期間(打設日) 補正値 北部地域 7月11日~8月31日 内部地域 7月24日の8月31日
内タイルの			塗替え A種 B種(外部の場合工程2, 工程4は行わない) 鉄鋼面 A種 B種 C種	2	構造体 基礎 2 1 上部 2 1	²	中部地域 7月21日~8月31日 南部地域 7月1日~9月10日
装 施工箇所 改 タイルの種類	類 寸法(mm) 生 地 釉 薬 耐凍害性 耐滑り性 役 物 色 その他 改		亜鉛めっき面 鋼製建具 A種 B種 C種 塗替え	震 補	軽量コンクリート 打 設 部 位 Fc(N/mm 2) スランプ(cm) 備	震 9 寒中コンクリート 補	予想平均気温が表8.2.4に示す予想平均気温未満の場合には標仕第6章第11節 (寒中コンクリート)による。
	磁器 無釉 有り 有り 標準 修		その他塗替え A種 B種 C種 ・新規 A種 B種	強 工 	横造体コンクリートの発注強度は以下のとおりとする。	強 工 10 無筋コンクリート 車 (8 11 1)	設計基準強度 18N/mm2 / スランプ 15cm又は18cm / (18cm / 18cm /
3-	磁器 無釉 有り 標準 陶器 施釉 無し 特注		F E 79ル酸樹脂エナメル塗り 木部 表7.6.1 鉄鋼面及び 表7.6.2	事	(標仕6.14.1によるもの及び土間コンクリートは構造体強度補正は行わない)	l ' '	セメントの種類 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種
	せっ器 磁器 無釉 有り 有り 標準 陶器 施釉 無し 無し 特注		亜鉛めっき鋼面 NAD 7クリル樹脂系 オーナインサー型を対象の	コ ン ク ^{2 普通コンクリートの材料}	普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種	ンク	高炉セメントB種 フライアッシュセメントB種
ガイルのi	陶器 施釉 無し 特注 せっ器 行わない 行う		非水分散型塗料塗り 鉄鋼面 A種 B種 C種 亜鉛めっき鋼面 A種 B種 C種	リ 	高炉セメントのB種(施工箇所) シリカセメント フライアッシュセメントのB種(施工箇所)		適用箇所 標準仕様書6.14.1(e)による箇所 図示による(
	見本焼き 行わない 行う		コングリート面及び A-1種 B-1種 C-1種 押出成形セメント板面 A-2種 B-2種 C-2種	工	骨材	・	受注者は、出荷伝票等を整理・保管し、監督職員の請求があった場合は、遅滞なく
材塗り(6.17.2)	tび品質は表6.17.1による せっこう系 セメント系 n) 10 15		EP-G つや有合成樹脂 コンケリート面 , プラスター面 , A種 B種 C種		相骨材 砂利(JIS A5308),砕石(JIS A5005) 高炉スラグ 電気炉酸化スラグ 再生骨材H 細骨材 砂(JIS A5308),砕砂(JIS A5005) 高炉スラグ 電気炉酸化スラグ	○ 迴槓郵附止対束等	提出するとともに、検査時に提示しなければならない。また、ミキサー車1台毎の 積載量が把握できる集計表を検査時に提出しなければならない。
			(B種及びC種の場合) 木部 新規 A種 B種 C種		銅スラヴ フェロニッケルスラヴ 再生骨材H	1 あと施工アンカー	
塗装材料 塗料のホ (7.1.3)	ホルムアルデヒド等の放散量 F		塗替え A種 B種 C種 鉄鋼面 A種 B種 C種 亜鉛めっき鋼面 A種 B種 C種		アルカリシリカ反応性による区分 A (無害)	8 (8.2.4)	引張耐力
7 下地調整	(表7.2.1) ~ (表7.2.7) 素 地 種 別 備 考		EP 合成樹脂 A種 B種 C種 IT(N)32/\(^1/21) と しみ止め		防錆剤 鉄筋コングリート用防錆剤(JIS A 6025) 混和材 フライアッシュ(JIS A6201) 種、 種若しくは 種	3	接合筋 種類
(7.2.2) 木部~(7.2.7) 鉄鋼面	R A 種 R B 種 R C 種 R A 種 R B 種		しみ止めシーラー (B種及びC種の場合) E P - T 合成樹脂エマルション A種 B種 C種 模様塗料塗り		コンクリート用高炉スラグ微粉末(JIS A 6206) コンクリート用シリカフューム(JIS A 6207) コンクリート用膨張材(JIS A 6202)	耐	接着系アンカー 引張耐力 せん断耐力
塗	RC種 pき鋼面 RA種 RB種		U C	3 構造体強度補正値		強 工 事	種類 カプセル型回転・打撃式 アンカー筋 改修標仕表8.2.1の異形棒鋼
さい は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	R C種 レ及び R A種 R B種 ひび割れ部の補修 スター面 R C種 適用する 適用しない		OS 材が表示が達り 表7.14.1 WP 木材保護塗料塗り A種 B種 アクリルエマルジ・3ン塗料 水性反応硬化型シリコン変性	(8.2.5)	予想平均気温 () 補正値 期間 (打設日) 普通 早強 (5) 南部地域 中部地域 北部地域 8以上 5以上 3 / 3/6 ~ 6/31 3/11 ~ 7/20 3/11 ~ 7/10	(b c c c c c c c c c c c c c c c c c c	程 埋込み長さ 新設壁内への定着長さ
上			塗り(断熱タイプ) ローラー工法		N/mm 2 9/11~ 11/15 9/1 ~ 11/5 9/1 ~ 10/31	施 工 ア	埋め込み配管等の探査 範囲 あと施工アンカー施工部分全て 図示による
	面及び R A種 R B種 ひび割れ部の補修 成形セメント面 R C種 適用する 適用しない ラポード及び R A種 R B種	1 鉄筋の種類	(表8.2 1) 種類の記号 径 (mm) 備 考		8未満 5未満 N/mm 2	ン カ	方法 鉄筋探知機(金属探知機)により探査し、鉄筋、配管類の位置に 墨出しな行う。 図示による
	8 他ボード面 R C種 1	(8.2.1)	異形鉄筋 SD295A D16以下 SD345 D19以上		北部地域(宮津市、旧加悦町以北の市町)中部地域(上記以外の市町、旧美山町及び旧京北町を含む)	エ 事) 2 あと施工アンカー	
錆止め塗料塗り 錆止め塗 (7.3.2) 塗面 種類 (7.3.3)	55 HB AN AWAY		SD295AはF c :21以上の場合、壁筋及びスラブ筋に適用する		フロー値 /	の試験 (8.2.4) (8.12.5)	
(7.3.3) 鉄 A 和		2 溶接金網 (8.2.2)	網目の形状、寸法 鉄線の径 (mm) 鉄線の径 (mm) 重ね継手の長さ	5 (8.1.4)	合板の規格 「合板の日本農林規格」の「コンクリート型枠用合板の規格」による合板 	1 鉄骨の製作工場 (8.1.5)	監督職員の承諾する工場 建築基準法第77条の56第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として
鋼	・ 水系さび止め ・ A種 B種 C種 EP-G塗	(8.3.4)	重ね継手 が λ圧接継手 D 1 9 以上 改修標仕 機械式継手 溶接継手 8.3.4(c)による	(8.7.8)	厚さ(mm) 1 2	8	認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター又は(株)全国鉄骨評価機構 (旧(社)全国鐵構工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める
A A	- 鉛・クロムフリーさび止め 2種 塗替え A種 B種 C種 A A B E A A B E A	(8.4.3)	重ね継手 が λ圧接継手 D 16以下 別図表による 機械式継手 溶接継手 機械式継手 工法		打放し仕上げのせき板 合板せき板を用いる場合 (表8.1.3) 種別	4	「(/ S H M R J)グレード」として、国土交通大臣から認定を 受けた工場もしくは同等以上の能力のある工場
亜 鉛 めっ B 利					A種 8.2.7(b)(1) B種 8.2.7(b)(2)	耐 2 施工管理技術者 震 (8.1.5)	適用する 適用しない
育 育 百 〇 木	種 - 水系さび止め - A種 B種 C種 EP-G塗 EP-G塗		品質確認方法、修正方法等 鉄筋継手位置 構造図による 表8.3.3による 柱に取付る梁の引張り鉄筋の定着長さ 構造図による 表8.3.4による		C種 8.2.7(b)(2) 合板せき板を用いない場合 せき板の種別	補 強 3 鋼材の種別 丁 (8.2.8)/	種類の記号 使用箇所 規格等 SS400 JIS G 3101
		4 柱の帯筋 (8.3.4)	日型 W-型 W-型 図示		スリーブの材種 (表8.2.6)	事	SM400A JIS G 3106 SN400A JIS G 3136
		5 鉄筋のかぶり厚さ 及び間隔 (8.3.5)	軽量コンクリートで土に接する部分の鉄筋のかぶり厚さは下表による。 ちまのみばる ヤスカのちる 部分等 あり トス利な策疾の鉄策のかぶり 原さけてまに トス		適用 箇所 材種 (規格 その他) 水密を要する地中部分等 つば付き鋼管 (JIS G3452 の黒管に厚さ6 mm以上、つば幅50mm以上の鋼板を溶接したもの)	鉄 骨 エ	図示による
		次い町門(0.3.3)	塩害の受げるおそれのある部分等、耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さは下表による。		水密を要しない地中部分等 硬質ポリ塩化ビニル管(JIS K6741 のVU)	事 4高力ボル (8.2.9)	
			機械式継手及び溶接継手のあき		上記以外の円形スリーブ 溶融亜鉛めっき鋼板 (径200 mm以下は厚0.4 mm 以上、径200 mmを超え350 mm以下は厚0.6 mm以上)		ポルト径 すべり係数試験 行わない 行う 試験方法等 図示による
		6 壁の配筋及び補強 (8.8.7)	構造特記による		外部に面する打放し仕上げの打増し厚さ 図示による 20mm シアコネクターとセパレーターの兼用 可 不可	5 溶融亜鉛めっき	セットの種類 1 種(F8T)
		7 圧接完プ後の 試験 (8.3.8)	試験方法 超音波探傷試験 引張試験	6 <u>カンクリートの</u> 試験 (8.8.2) ~ (8.8.5)		高力ボルト (8.2.9) (8.20.4)	ボルト径 <u></u> 摩擦面の処理 ブラスト処理(表面粗度 5 0 µ mRz以上)
		(U.J.O)	지한사회자 I L 사이 보고	7 軽量コンクリート	常時土又は水に直接接する部分の使用 可 不可		プラスト処理以外の特別な処理方法 リン酸塩処理
				, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	種別 1種 2種 施工箇所		図示による() すべり耐力等の確認方法 試験方法等 図示による
		 	/ 京都府立医科大学附属北部医療セン		長 参 事 副 課 長 主査(総括)	担 当	工 京都府立医科大学附属北部医療センター 図 番
	戸 木寸 言殳 言十 下西伊佐男 所 京都府(28A)第00956号 - ☆建築士第99843号						A-04 A-05